

臨床宗教師駐在ホスピス開設

岐阜県大垣市 沼口医院 国内初「宗教史大きく変える」

国内初となる臨床宗教師の駐在する共同住宅型ホスピス「アミターバ」が完成し、岐阜県大垣市の現地で18日、竣工式が行われた。医療と宗教の協力を力を入れる沼口医院（医療法人徳義会、岐阜県大垣市）が建て、傾聴喫茶「カフェ・デ・モンク」を併設する。約80人が出席した式典で、真宗大谷派僧侶で内科医の沼口論理理事長は、長年にわたり模索してきた命に向き合う医療のかたちの一つを実現できた思いに時折声を詰まらせながら「医療と宗教のコーディネートという役目で、全国に発信したい」と述べた。

傾聴喫茶「カフェ・デ・モンク」併設

2階建て延べ991平方メートル、沼口医院に隣接する。スタッフは看護師

併設の「カフェ・デ・モンク」で語らう沼口氏、金田氏、鈴木氏（左から）



完成した共同住宅型ホスピス「アミターバ」の前で記念撮影する関係者



6人と介護士8人、相談員3人。終末期のがんや難病の患者を対象に18室があり、瞑想室なども備える。総工費は約2億5000万円。

すでに沼口医院で働く臨床宗教師の田中至道氏（本願寺派）に加え、中部臨床宗教師会の野々目月泉さん（大谷派）らが「カフェ」に立ち、入居者のケアにあたる。また、全国の病院で活躍できることを願い、養成講座を終えても活動する場の少ない経験の浅い臨床宗教師の研修も行う。

臨床宗教師の養成に携わる東北大学大学院の鈴木三智子教授が、式典で

席、超高齢多死社会のターミナルケアに必要とされる臨床宗教師が定着することは、「日本の宗教史を大きく変える」と力を込め「アミターバ」や臨床宗教師の営みが、かつて密接だった宗教と医療の関係を現代風に良くし

て近づける」と期待を寄せた。

東日本大震災をきっかけに「カフェ」を立ち上げた金田諦應氏（曹洞宗）も駆けつけ「臨床宗教師、日本の医療の基地になる」と激励。「声なき声に耳を澄ませながら、いつも何となく喉そうな佇まいを心がけて」と「カフェ」での心構えを指南した。市民病院長や県内の医師からも声援を送った。

式典後と翌日の内覧会には、2日間で約900人の医療関係者や地域住民が訪れた。オープンは11月11日。